


ふりがな 氏名	ふくだ あつみ <b>福田 あつ美</b>	都道府県	<b>群馬県</b>	
所属/肩書	<b>群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部</b>			
私のESD活動	<b>所属する NPO 団体にて、紛争地域の青少年を対象に里山を舞台にした対話交流プログラムを行っています</b>			
ESD活動を表すキーワード	<b>つながり</b>	<b>持続可能性</b>	<b>草の根</b>	

**活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）**

大学1年時から認定NPO法人Peace Field Japanの学生ボランティアスタッフとして活動を続けています。当団体は、持続可能な平和の担い手を育成するため、イスラエル、日本、パレスチナの少女たちを日本の里山（山梨県小菅村）に招き、自然の中での体験活動や環境教育を通じた、2週間の対話交流プログラム（”絆“KIZUNA プロジェクト）を企画、運営しています。”SATOYAMA for Peace“をコンセプトとし、日本の里山から発信する実践的な平和構築のモデルとして、持続可能な平和の実現を目指しています。

私は、学生ボランティアとして、自然の中での様々な活動の企画や実施、生活面でのサポートを主に行っています。この活動を続ける中で、対立するイスラエルとパレスチナに住む少女たちの葛藤や紛争解決の難しさを痛感したと同時に、そういった環境の下でも逞しく生きる現地の人々の姿に胸を打たれました。また、環境面に目を向ければ、規模や状況の違いはあっても、世界中の人々が地球環境を共有し、多くの課題を共に抱えていると実感する場面が多くありました。このプログラムに昨年参加したパレスチナからの参加者は、彼女が住んでいる村も、”里山“であるということに気が付き、将来は同様のプログラムをパレスチナでも実施していきたいと意欲を見せています。また、日本からの高校生の参加者は、イスラエルとパレスチナ間の問題は国際問題のひとつではなく、自分の友達を隔てている大きな問題であると捉え、将来は国際機関で問題解決のために働きたいと目標を述べていました。こういった経験から、教育や体験といった機会がゴールではなく、そこがスタートであると感じ、行動を起こすことの大切さを実感しました。

・認定NPO法人Peace Field Japan <http://www.peace-field.org/index.html>

**ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？**

まず、4月から入社する企業では、理念として持続可能な社会の実現を目指しているので、まずはその理念を支えるビジネスについて学ぶことから始めます。特に地方と都市とを結びつけることを意識し、両者に関する知識を深めていきたいです。同時に、さまざまな社会問題にアプローチするためのイベントや活動を実現できる場があるので、そのような場を活用していきたいです。そういった企業としてのアプローチを通じて、地球環境や社会問題に関する消費者の意識を喚起したいと考えます。また、継続してNPO団体での活動に関わっていこうと考えています。イスラエル、パレスチナ間の問題や”里山”から学ぶ環境問題はすぐに解決できるものではありません。今まで積み上げてきた経験や想いを、今後の学生スタッフや参加者たちといった次の世代にも伝えることによりサポートしていこうと思っています。